

奈良の身近な薬草(家の庭から野山まで)

草花を鑑賞するのに、まず、自宅の庭から見渡すと、庭先で栽培されている植物でも、それぞれにいろいろな薬効を持っており、中には強い毒性を示すものもあります。

また、少し散歩をすれば、いつも見ている道端の雑草も、薬効をもつものがあり、また一味違ったイメージで観賞することができるのではないのでしょうか。

ここでは、身近な場所で見ることのできる薬草を紹介しています。

自然を楽しむには、まず知ることが第一歩です。知れば興味が湧き、その知識は発展していきます。身近なところから多くの知識と楽しみを得るきっかけとなれば幸いです。



- ◆クズ
- ◇ マメ科
- カクコン (葛根) (夏)
- 周皮を剥いた根
- ◎ 発汗、解熱、鎮痛
- 日本各地の山野に見られるツル性の多年生植物で、秋の七草の一つです。夏に周囲を圧倒するように繁茂する姿は活力に満ちています。秋に紫赤色の花をつけ、その後褐色の毛で覆われた莢果を作ります。また、根のデンプンを葛粉とし、和菓子等にも用います。なかでも奈良の吉野葛は有名です。
- 漢方では、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷などに配合されます。



- ◆キキョウ
- ◇ キキョウ科
- キキョウコン (桔梗根) (夏)
- 根
- ◎ 去痰、排膿薬
- 日本各地に分布し、また鑑賞用として栽培されている多年草。根は白く多肉。高さ1m以上にもなります。夏に紫または白で鐘型の五裂花をつけます。秋の七草のアサガオはキキョウのことだと言われています。
- 漢方では、桔梗湯、防風通聖散などに配合されます。



- ◆サフラン
- ◇ アヤメ科
- サフラン (秋)
- 雌しべの柱頭
- ◎ 婦人用薬(生理痛、生理不順等)
- 南欧原産の多年草で、西洋で古くから用いられています。花茎は短く、葉と株を葉鞘に包まれ、花が終わってから葉が成長します。淡紫色の花の中に上部が3本に分かれた鮮黄赤色の花柱があり、薬用、染色に用いられます。また、ブイヤベース等にスパイスとしても使用されます。



- ◆ジオウ
- ◇ ゴマノハグサ科
- ジオウ (地黄) (夏)
- 根
- ◎ 止瀉、緩下、利尿
- 中国原産の多年草で、葉にはちりめん状のしわがあり、表面には細かい毛が生えています。初夏の頃に30cmほどの茎に淡紅色の筒状の花を咲かせます。奈良県に縁のある薬草で、江戸時代に栽培されており、現在でも橿原市に「地黄町」という地名が残っています。
- 漢方では、八味地黄丸などに配合されています。

《説明文について》
説明文は各項目毎に下記に示す内容となっています。

(植物の写真)

- ◆植物名 ◇科名
- 生薬名 (花の季節)
- 使用部位
- ◎用途など
- 解説



- ◆シャクヤク
- ◇ ボタン科
- シャクヤク(芍薬) (春)
- 根
- ◎ 婦人薬、鎮痛、鎮痙
- 中国から渡来した多年草で、観賞用としてよく栽培されています。初夏から白色に淡紅色、その他改良された多様な色(園芸品種)の大型で美しい花を咲かせます。婦人薬処方として有名な「当帰芍薬散」をはじめ、多くの漢方処方に配合されています。奈良県で古くから薬用に栽培された大和芍薬は良品として知られています。
- 漢方では、当帰芍薬散、芍薬甘草湯、四物湯などに配合されます。



- ◆トウキ
- ◇ セリ科
- トウキ(当帰) (夏)
- 根
- ◎ 婦人薬、鎮痛、鎮静
- 山地に自生する芳香を持つ多年草です。夏から秋にかけて、多数の白い小花をつけ、葉は濃い緑色でつやがあります。
- 婦人薬に配合される代表的な生薬で、「当帰」の名は「まさに帰るべし」の意といわれ、妻が夫の元に帰ることを意味しています。
- 生薬の品質は大深当帰(大和当帰)が良いとされていますが、数が少なく、北海当帰が主流となっています。
- 漢方では、当帰芍薬散、十全大補湯、四物湯などに配合されます。

編集：奈良県薬事研究センター
奈良県医療政策部薬務課

奈良県御所市 605-10 TEL 0745-62-2376
奈良県奈良市登大路町 30 TEL 0742-27-8673